

グッズの一つとして同窓会でカップを作ったこともありましたが、ここ数年間は挑戦しておりませんでした。時々マグカップはないのかと聞いていただくこともあり、企画製作したいと思っていました。

2019年の春、兵庫のとある美術館で展示を見た後、併設の窯で陶芸会員の方が焼いた作品を見ました。こんなマグカップなら楽しいだろうと構想はとりとめなく湧いてくるのですが、お願いもできず帰りました。そしてその年の12月、再びその美術館を訪れ、作家の松田美智子さんと連絡が取れ、快く引き受けていただき、マグカップの誕生に至りました。15か月にわたる作品製作をご紹介します。

マグカップ全体は色を付けた粘土を混ぜてマーブルになっており、そこに、模様が入っています。

この模様は、金太郎あめの要領で作られ、それを切ってはめ込んでいます。

そのため内側にも同じ模様が見えるのです。

工程を少しご説明いたします。

まずは、粘土に色を付けて組み合わせ、模様を作ります。



色の棒をまとめて模様ができました。



模様の棒は、金太郎飴よろしく切られてマグカップ側面に組み込んでいきますので、側面の厚さに合わせて切ります。土が柔らかいうちに切らなくてはならないし、柔らかいのために切ると形が歪んだりするそうです。

そしてマーブル模様のカップ側面に、模様と同じ形の穴をあけ、そこに模様を入れていきます。

マグカップ側面に模様を埋め込む作業



底の上に側面を立てて成形し、その後乾燥させて窯で焼き、窯から出して釉薬を掛けてもう一度焼きます。

昨年10月成形後の乾燥時、底にヒビが入ったり、窯から出すと割れていたり受難の日が続きました。



そして、ついに完成したマグカップ！
手作りですから、どれもちょっとずつ違って個性的

価格 2,300 円



2020年は同窓会創立100周年
記念の篆刻入り

